

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和2年度第2回高松市スポーツ推進審議会
開催日時	令和3年3月24日(水) 18時30分～19時55分
開催場所	高松市防災合同庁舎3階302会議室
議 題	高松市スポーツ推進計画中間期アンケートの結果報告について 高松市スポーツ推進計画の進捗状況について 令和2年度・3年度におけるスポーツイベント・施設の状況について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	内海委員、大西委員、塩津委員、田村委員、西山委員、森委員、山家委員、米村委員、山根委員 (欠席2名)
傍聴者	1人 (定員 5人)
担当課及び連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過及び会議結果

【会議の経過】

- 1 大西会長挨拶
- 2 事務局から、会議成立の報告後、会議の公開について委員会に諮り、審議した結果、公開とすることを決定した。
- 3 議題
事務局から、「高松市スポーツ推進計画中間期アンケートの結果報告」、「高松市スポーツ推進計画の進捗状況」及び「令和2年度・3年度におけるスポーツイベント・施設の状況」について、説明した。
- 4 主な意見、質疑等については次のとおり
○高松市スポーツ推進計画中間期アンケートについて
【A委員】
20代から40代の運動実施率が少ないと思うが、ここを上げていけば、実施率70%が見えてくるのではないかと思う。何か対策は、ありますか。
【事務局】
勤労世代、子育て世代の方でも参加できるような、教室イベント等を検討していく必要があると思っている。例えば平日夜間、休日に気軽に初心者でも参加できるような、事業を検討していく必要があると考えている。
【B委員】
新型コロナウイルス感染症の影響が、実はあまりなく、スポーツの実施頻度が変わらないことは、興味深い結果である。個人にスポーツ活動がかなり依拠しているから、コロナ禍においても影響が少なかったと読み取れる。

会議経過及び会議結果

新型コロナウイルス感染症の影響で家族単位等での活動がかなり低下してきているので、例えば県外に出ることに対してかなりネガティブな情報が飛び交っている。その意味で県内、例えば親子で活動できるもの、密にならない形で参加できるイベントを増やし、潜在的、例えば子育て世代をターゲットにしたものを取り入れてもいいのではないかと感じている。

基本的なニーズは、いわゆる簡単にできる運動、やはりウォーキングやトレーニング系であると思う。市内に設置されているスポーツ施設を個人で利用している方も増えており、それをベースとして、それ以外の家族単位を狙った施策というものがあっていいと考える。例えば、毎月第3の土日は、高松市立中央公園で、幾つかのプログラムを体験いただけるイベントを定期的で開催して、参加しやすい状況を提供することが考えられる。

また、情報発信の仕方として、高松市が小学校などの学校施設に案内を配布することで、子育て世代に対し情報の流布を図る。

広報高松での周知は、子育て世代などであれば、開催予定のイベント・教室について見てもらえると思うが、独身世帯などには、伝わらない可能性がある。ターゲットに合わせた広報の仕方を改めて考える必要があると思う。

【C委員】

思ったよりコロナの影響がなかったと私も非常に感じた。

私も大学で、学生約200人を対象にアンケートしたところ、7割ぐらいは、結構運動をしていたとの結果がある。その内容としては、ご家庭でYouTubeを見ながら身体を動かしている方が多いと感じた。高齢者では、YouTubeを利用している方が少ないため、コロナ自粛の間はあまり動いてなかったが、コロナ自粛が明けると、マスクを着用した軽運動を週に1回参加する、積極的にコミュニティで集まる活動などを行っていることは把握している。

子育て世代に向けて、ご家庭でちょっと身体を動かすことができるようにYouTubeを活用したり、県内の施設で開催している催しの情報をしっかり発信していく必要がある。

また、民間のジムでは、トレーニングをしてる若者に加え、年配の方も、最近増えてきていることから、コロナ禍において、全体的に健康に対する意識が向上していると感じている。

【D委員】

今回のアンケートの結果を受けて、やはり20～40代が、家族単位で参加できる、長時間ではなく、行った先でいろいろなことができる、学校開放などの施設を使ったイベントが頻繁にあった方が良く思う。スポーツ実施率70%という目標が、すぐに達成できるのではなく、時間をかけて積み上げるしかないと思う。

【E委員】

アンケート結果の年代別週1回以上のスポーツ実施率を見たときに、やはり働き世代の20～40代が少なく子供と年配の方に二極化しており、総合型地域スポーツクラブの視点から見ても、県内の総合型クラブ会員の年齢層と似ているという印象である。

子育て世代や勤労世代に対するアプローチの方法が重要であると感じており、日本レクリエーション協会が行った、平成24年度の「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進のための調査研究」にもあるが、これからもスポーツの視点と一緒に、レクリエーション的な視点を取り入れることで、身体を動かすことに対するハードルが下がるのではないかと印象を受けている。

会議経過及び会議結果

【F委員】

今回のアンケート結果の中で、スポーツ推進計画の認知度が、非常に低いことから、高松市の取組について周知徹底できる新たな方法を検討する必要があるとあり、市の取組をしっかりと発信することでスポーツをする人の増加にもつながると思う。

次に、広報高松に掲載されている高松市のスポーツイベントや教室の情報が少なくなり、ホームページやインターネットでの情報発信となると見られない人も多くいるため、紙での広報についても、見直していく必要を感じている。

次に、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度スポーツイベントが中止となっており、今年度のイベントでも中止が決まっているものもある中、従来型の、沢山の人を集客するイベントではなく、小規模なイベントをこまめに開催する必要があると思う。各コミュニティ単位でのイベントについても、地区体協やスポーツ推進委員等を中心としたスポーツイベントに関する予算化も一つの実施率向上の1点かなと思う。

最後に、各市町村県がスポーツ庁の「地方スポーツ振興費補助金」を活用した事業を行っており、ぜひ高松市でも、この助成制度を利用した、事業を検討していただきたいと思う。

【G委員】

今後行いたいスポーツの項目で、比較的軽いジョギング、ウォーキング、いわゆる軽い散歩等を望まれているのではと考える。

また、共働きの世帯が増えているが、民間企業では、長期の育休がとれるところが少ない印象があるため、若い、特にお母さん方も、スポーツをするのは難しい。ただ一つ、数は少ないが、廃校となった小学校を活用してスポーツを行っている事例もある。スポーツするのに商業施設が公的施設より、割合多いと感じており、行政側の住民に対する説明が必要であると思う。

今のやり方で難しいのであれば、何らかの新しい方法が必要と考える。高松市中央卸売市場がテレビや新聞で、取り上げられたことで集客につながったこともあり、紙での周知は大切だと思った。

【H委員】

皆さんと同様に週1回以上スポーツをした方が、前回とほぼ同じである結果に驚いている。

また、子供の運動する人としらない子供と二極化してると言われているが、成人についても同様と思っている。子育て世代の方が、運動する機会がないことから、親子でできて、近くの体育館やコミュニティセンターで開催されるイベントを考えてもらいたいと思う。

【I委員】

高松市スポーツ推進計画を約8%の人しか知っていなかったということは、非常に残念に思う。スポーツ関係団体以外の市民には、周知が行き届いていないことから、外部に出す封筒にスポーツ実施率に関する文言を印刷したりなど、小さなPRを始め、今後も引き続き周知を図りたいと考えている。

次に、情報発信として高松市内のスポーツに関する情報をまとめたチラシやポスターの設置を今後も取り組んでいくこと、市報の活用などの必要性を感じている。

また、高松スポーツカーニバル等の市内既存イベントについては、少しずつ浸透しているが、小さなコミュニティ、近い場所で体験型のイベントを希望するアンケート結果があることから、地区体とスポーツ推進委員と協力をして、現在スポーツ振興課で推進している障がい者スポーツ等について、充実させていくことはすぐできることと感じている。

会議経過及び会議結果

○高松市スポーツ推進計画の進捗状況について
特に質問等は、無し。

○令和2年度・3年度におけるスポーツイベント・施設の状況について
【E委員】

議題(2)とリンクするかもしれないが、先日、高松市内の総合型クラブと情報交換した際、施設利用状況の現状をしっかりと把握して欲しいとの意見があった。特定の団体が施設を一度に予約し、その3分の1も使用していない状況が多々発生しているとのこと。高松市はスポーツ施設が限られているため、スポーツ実施率を上げていくためにはスポーツ施設の稼働率は非常に大事だと思う。実際に団体が予約して、それが実際にどの程度活用されたのかを、指定管理者の高松市スポーツ協会等と協力して検証調査をしていただきたい。

【I委員】

高松市内の体育施設利用については、高松市の条例に基づいて、予約の順番で利用をしていただいていると思う。

○「その他」について

【D委員】

スポーツ実施率が伸びていないが、少しずつ伸びている部分もあると思っている。情報発信についても紙媒体やインターネット、それぞれで利用している人がいる中、SNSを見てプロスポーツ観戦に行く方もいると思う。スポーツをしている人がスポーツを行っていない方への声掛けが重要と感じている。

【C委員】

年代別に、情報発信の仕方を分ける必要がある。

また、市民一人一人が置かれている状況が違うため、価値と期待に着目した取り組みが必要であると考えている。

【B委員】

家族単位の活動は、コロナ禍で焦点化されている。実際、外出規制で出づらいう状況になって、週末家で過ごす方が増えていると思う。その方たちが新たなターゲットにできると感じており、例えば、週1回あるいは月1回程度、高松市内で、継続参加すると月1回程度は運動機会が保障されるイベントを検討してみても良いと感じている。

現在、各団体がいろんな単発型のイベントを開催しているが、規模や種類が違っているため、一貫して、月1回程度は、家族で参加できるスポーツイベントを開催し、そこからさらに週1回の運動実施という周知を併せて行うことも一つの方法と考える。

また、学校に対する情報発信を行うことで、関心の高い人に響くのではないかと、県外移動がなくなり、旅行ができる状況から、県内で先ほど申し上げたイベントが、コロナ対策を行い、安心して参加できるようにすることは、今後必要であると感じた。

【A委員】

県内のイベント等について、香川県の県民性として、お金がかかると、参加しづらいと感じており、無料で気軽に参加できる体験イベントがあれば良いと思う。

また、例えば様々なスポーツ競技団体があるが、新規の方が加入しづらい状況があると感じている。気軽に体験できる機会があれば良いと思う。若い世代では、毎回参加はできないが、たまにだったら参加できると考えている方も多いため、毎週、毎回参加しなければいけない制限は、厳しいと考える。

会議経過及び会議結果

【E委員】

広報に関して、高松市スポーツ振興課のホームページのアクセス数を数値目標にしているが、ホームページ以外の媒体があれば、ホームページ内にリンクバナー等を貼りつけた方が、アクセス数増加に繋がると思う。

【H委員】

高松市と高松市スポーツ協会が共催、高松市スポーツ推進委員が主管している大会の参加料をまちづくり交付金の対象にすることができたらスポーツが普及すると考えているので、検討いただきたい。

【G委員】

学校開放を利用している諸団体が新規の会員を積極的に募集していない印象があり、各地区の活動であるため、例えばスポーツ推進委員が積極的に入っていくなど、参加しやすい環境をつくる必要があると考えている。

【I委員】

情報発信が一つのキーワードになっていると思う。

一度、原点に戻って高松市スポーツ推進計画の認知度を上げていきたいと思う。当審議会の中で考察するだけでなく、現場で実践することができる環境づくりをスポーツ振興課、関係団体等々と協力をして、何とかスポーツ実施率70%に近づけるように、努力をしていきたいと、非常に感じている。

【事務局】

それぞれの専門分野におけるご経験を踏まえたご意見をいただき、やはり行政目線ではなく、市民目線、団体目線の施策が大事であると感じている。キーワードとなっている情報発信についての取組を委員の皆様のご意見をいただきながら、市民にしっかり発信ができるよう取り組んでいきたい。

今回のアンケートは、コロナ禍で難しい状況下での実施になったが、アンケートの結果を受けて、様々な課題を見つけることができたことを今後の施策に活かしていきたい。

5 大西会長（議長）閉会宣言